

feature interview

DJ AM

USシーンの最重要DJとして日本でも注目を浴び、HARLEMへ再びやってくるDJ AM。ここでしか読めない貴重なインタビューを要チェック!

■最近の活動は?

今までにない位のハードスケジュールでDJしてる。今はちょうどファッションウィークでN.Y.に来てるんだけど、昨日は一晚に3つのパーティーを掛け持ちして、合計7時間も回ってきたんだ。あと最近、L.A.に「LAX」っていう自分のクラブをオープンさせたんだけど、そこでも毎週水曜にプレイしてるよ。Las VegasのHARD ROCK HOTELの中にあるBODY ENGLISHでも変わらず毎週末DJをしてるけど、そのパーティーはあと何ヶ月かで、CAESARS HOTELのPUREっていうクラブに移動することになったんだけどね。もうLas Vegasで毎週DJするようになって1年半も経つよ。

■DJ歴は何年ですか? またDJを始めたきっかけは?

DJ歴は、趣味でやってた時代も入れると今年で15年。仕事としてやり始めてからは10年になるね。僕はPhiladelphiaで育ったんだけど、The High and The MightyのDJ Mighty Miが僕の幼馴染で、ターンテーブルを持ってた。ちょうど僕らが12歳ぐらいの頃だね。その頃から彼のターンテーブルでちょっとした遊び感覚でDJをするようになった。その後、僕はL.A.に引っ越したんだけど、そこで僕の友達Alan (DJ Alchemist) がDJをしてた。当時僕は音も作ってたから、彼に曲の作り方を教える代わりにDJのスキルを教えてもらったんだ。その後、彼は色々な人の色々な曲をプロデュースするようになったよね。

■昨年初来日を果たし、今回は2回目ですが、前回の感想は? 日本に対する印象は?

日本は大好きだね! 前回来日した時も、本当に楽しかったよ。DJをして印象に残った事は、L.A.ではお客さんは一晩中踊り続けるって感じなんだけど、日本はただDJを見てるだけの人も多いよね。僕はお客さんが僕のDJプレイで踊ってくれるのを見るのが好きだから、ちょっと変な感じとか、僕のDJが悪いのか? って一瞬不安になったけど(笑)。でもみんな楽しんでくれているように見えたからきっと大丈夫だったんだと思う。ただ、前回のHARLEMのプレイの時は、かなり緊張してたから、自分の最高のプレイは出来なかったような気がするのが残念なんだけど。

■日本に来るDJやアーティストのほとんどが日本のお客さんはアメリカのお客さんに比べて音楽をよく勉強していると言いますが、あなたもそれは感じましたか?

そう! 僕も本当にみんなよく勉強していると思うよ。だから、すごく緊張したんだ!

■来日前と来日後、日本に対する印象は変わりましたか? 来日前に持っていた日本に対するイメージ、印象は?

日本に来る前は、日本ってもっともっと小さい国だと思ってた。でも日本って思った以上に大きいよね。前は東京だけだったけど、どこもかしこも人で溢れてるし。それに日本人は男性も女性もみんな痩せてて、綺麗な人が多いよね。僕は英語しか話せないから、かなり言葉の部分で不安はあったけど、通訳の人が居たから特に問題はなかったんだけどね。そのおかげで、凄い数のスニーカーとレコードを買っちゃったけど(笑)。

■最近Scratch LiveやFinal Scratch等のパソコンソフトを使用するDJが増えてきましたが、あなたは?

僕はSerato Scratchを100%支持してる。かなりのファンだよ。僕は左手首にTechnicsのタトゥーを入れてる。だからCDJはパスだね。まあCDJもそれなりにカッコいいかもしれないけど、

でもレコードじゃない。Seratoは本当のレコードとTechnicsのターンテーブルを使うだろ? だから同じ事なんだ。アナログでターンテーブルを使って回すと感覚も同じだし、スキルも同等のものが要求される。これが出来てから、重いレコードバックを持ち歩かずに済むようになって凄く楽になったよ。生まれて初めてSeratoを試した時、僕は凄くハッピーだったし興奮したのは確か。Seratoの色々な機能やそれが出来る色々なトリックを見て、試して、すごくドキドキしたし嬉しかった。でも、それと同時に凄く悲しくなって泣きそうだった。レコード、アナログの死を目の当たりにした、って言う感じで本当に涙が出そうだったんだ。僕は本当に長い間、クレーツをDIGして、レコードを集めてきた。その時代は終わりののか、と思ったら本当に切なかったし、悲しくなったよね。でも、7,000枚の12インチを全て機内持ち込み用の小さいバッグに入れて持ち運べて、しかも今までと何ら変わらずDJとしての仕事出来るっていうのはかなり魅力的だし嬉しい事だし、僕はSeratoの持つ機能と可能性の全てをフルに活用してるよ。11月の僕のパーティーに来れば、それがどんなものか見れるし解るよ!

■あなたにとって音楽とは? またDJとは?

僕にとっての音楽は食後のデザートみたいなもの、かな。人生そのものは食事で、音楽はそれについてくるデザート。音楽を聴く事によって、インスピレーションを与えられたり、感動させられたり、そしてそれによって色々な人と出会い共感し合う事が出来る。音楽ナシの生活なんて考えられないね。

そして僕にとってDJとは、空気のようなもの。それ無しじゃ生きられない。僕は、クラブに居る何時間かだけでもお客さんのみんなに毎日の生活や現実を忘れて楽しい時間を過ごして欲しい、音楽以外の事は考えずにとにかく楽しんで欲しい! っていつも思ってるし、そうすることが僕の喜びでもあるんだ。僕はDJになって今まで色々な国、色々な場所に行ってプレイする事が出来た。僕は世界で最高にラッキーな男だと思っていつも感謝してる。最高の人生だね。

■今までにやった中で一番印象に残っているパーティーは?

前にMix Master Mikeと一緒にMAXIMという雑誌のパーティーでDJをしたんだ。それはちょうどJam Master Jayが殺されたすぐ後だった。RunとDMCもそのパーティーに来てた。僕はそこでRUN DMCの「Jam Master Jammin」とGangstarrの「Full Clip」を使って、「Jam Master Jay」「Rest in Peace」ってミックスをやったんだ。それをかけた瞬間、DMCが右手のこぶしを上に高く挙げて、彼の目からは大粒の涙がこぼれた。全身に鳥肌が立ったよ。DJになった自分が音楽をプレイする事で、その(DJになる)きっかけになった人、影響を与えてくれた人の心を動かす事が出来た。こんな名誉な事、幸せな事って無いと思うんだ。今、思い出だけでも鳥肌が立つぐらい凄い経験だったよ、あれは。一生忘れられないね。

■今までに行った中で一番印象に残っている、お気に入りの国は? もちろん、日本だよ!!

■日本とアメリカ、またL.A.、N.Y.、東京のクラブシーン、ミュージックシーンの違いは何だとお思いますか?

日本は、DJが作り出すアートであるとか、DJingそのものに興味を持ってきている人がL.A.よりもずっと多いと思う。L.A.の人間は僕がどういふプレイをするとか、どんだけ頑張っているかとかなんて関係ないんだ。ただ好きな曲



を聴いて踊りたい。それだけ。N.Y.は、ヒット曲のレコードが一番最初に手に入る、1番最初に聴く事が出来る街だね。考えると凄くクレイジーだけど、N.Y.とL.A.には1ヶ月ぐらいの開きがある。例えば、L.A.で今やっと流行り出した曲が、N.Y.ではもう1ヶ月以上も前からかかっていてみんなが知ってる。それぐらいギャップがあるのは確かだよ。

■Mark Ronsonや、Stretch Armstrongと比較される事が多いですが、それについてはどう思いますか? また、彼らとの違いは何だと思えますか?

MarkもStretchも、2人とも素晴らしいDJだから、比べられるなんて凄く光栄な事だね。僕が彼らとちょっと違うところは、僕はスクラッチもするって事かな。僕は昔からターンテーブルリズムのファンだし、いつもみんなが聴いてる曲を少し変化させてかけるのが好きなんだ。

■多くのDJがプロデュース業にも進出していますが、プロダクション活動を始める予定は?

Jimmy Iovine からミックスCD制作のオファーはあったね。昔は結構プロダクションもやってて、ビートも沢山作ってたんだ。機会があればやりたいと思うよ。でも、僕はクラブでDJするのが本当に好きで好きでたまらないから、プロダクションにまで手が回らないんだよ。

■では仮に自分でアルバムを作ることになったら、フィーチャリングアーティストには誰を選びますか?

Biggieを呼び戻して、アルバムに参加して欲しい! 僕はBiggieの大大大ファンだからね。あと、KRS ONEとGURUとRAKIMかな。

■今一番熱いアーティストは?

Kanye Westしかいないよ。クラブで彼の曲を聴かないことはないだろ。どこのクラブもKanye一色だよ。

■ヒップホップ以外のジャンルもよくプレイしていますが、色々なジャンルを聴くようになったきっかけは?

僕は、小さい頃はBob Marley、Elton John、Billy Joelなんかを聴いて育った。僕は元々フィラデルフィア出身なんだけど、フィラデルフィアはアメリカの中でも音楽に溢れた街のひとつで、1979年にちょうどヒップホップが世に出始めた頃、

僕はフィラデルフィアに住んでた。僕の姉さんはパンクロッカーで、彼女が部屋でMISFITSやDEAD MILK MENなんかを聴いている隣で、僕は自分の部屋でBOGIE DOWN PRODUCTIONSや、RUN DMC、SPOONIE GEE、LL COOL Jなんかを聴いてる、っていう。音楽的に最高の環境で育ったと言えるだろうね。

■あなたが最も影響を受けた人は? 人間的には? DJとしては?

DJとして一番影響を受けたのは、CRAZEだね。彼を見て、ただレコードをかけるだけのDJにはなりたくない、もっと何かをしたいと思った。それからJam Master Jay、Cash Money、Joe CooleyとかDr. Dreとかだね。人間的には、僕の母親。そして、僕のスピリチュアル・アドバイザー(精神的助言者)のリズ。ずっと僕を支え続けてくれて、彼女の助けがなかったら今僕はここには居なかったかもしれない。彼女は、それぐらい僕の人生に大きな影響を与え、重要な意味を持つ人なんだ。

■昨年はずっと交際を続けているニコール・リッチーと婚約してから、メディアへの露出が増えましたが、何かそれによって変わったことはありますか?

そうだね。ちょっとは変わったね。凄く可笑しいのは、僕がDJをしてると「私、あなたのファンセが大好きなの!」って言って来る人とかがいるんだけど、「僕も大好きなんだよ」としか言いようがない(笑) 彼女はとにかくファンが多くて、ファンのみんなはその気持ちを彼女に伝えたいだけなんだろうけど。

■今回2回目の来日、HARLEMでの2度目のプレイになるわけですが? 意気込みは?

みんなが心から楽しめる夜にしたいと思ってるし、そうなるように僕も頑張るつもりだよ。いい音楽をかけて、来てくれたみんなを楽しませて、来てよかったと思えるイベントにしたいね。

■日本のファンにメッセージを。

ええと、日本に僕のファンが居るかどうかもまだ分からないけど(笑)でも、サポートしてくれてありがとう! それから、11月のパーティー、絶対楽しませるから、ぜひみんな遊びに来てほしいね。